

第12回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

女性研究者・技術者を育む土壌 ～連携・融合による支援をめざして～

日時：2014年10月4日（土）10:00～17:45

場所：東京大学大学院 数理科学研究科棟（東大駒場キャンパス）

第12回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加した。本連絡会は2002年に発足し、現在では加盟学協会85、総会員数45万8千人の組織である。シンポジウムの参加者は200名強であり大講義室の全ての席が埋まるほどであった。シンポジウムでは、分科会、ポスターセッション、特別講演、パネル討論が行われ、来賓として出席された各政府機関の方々からも質問やコメントがあり、活発な討論がなされていた。

以下、各セッションの概略を記す。

○分科会 A 女性技術者の働き方—意識・組織・制度—

労働基準法の坑内労働禁止法により、トンネル内に立ち入ることが出来なかった女性技術者の働き方について、意識の変革と制度の見直しがなされた事例や産業界で成功した事例の紹介があった。

○分科会 B 同居支援への支援案の模索

Dual careerの有効な支援策としてバーチャル研究所の設立が分科会から提案された。会場からは、既に制度化されている特別研究員RPD（育児等による研究の一時中断からの復帰支援）の枠組みを広げて利用してはどうか、との提案があった。

○ポスターセッション

学協会26の他に、東北大、千葉大、広島大、九州大と森林総合研究所の5機関からのポスター発表があった。ポスター内容は、各学会の構成、男女共同参画の取り組みについての歴史と現状、開催したワークショップの内容やその際の質問事項、提案事項などの活動報告であった。

○特別講演：現 消費者庁長官（前文部科学審議官）の板東久美子氏

板東氏は、文部省時代（約10年前）から本シンポジウムや交流会に毎年参加し、学協会の活動を官の立場から見てこられた。他先進諸国と日本の違い、大学における取り組み（トップ型37校、H25→H35の数値目標）、産業界と連携することの意義について、最近のトピックス（スーパーグローバル大学、米国ハウスワイフ2.0）を取り入れながら、わかりやすく講演された。

本年度の取り組みとして、第3回大規模アンケートの解析結果（2013年第11期実施）に基づく提言・要望書を政府の各所に提出した。2014年6月に、安倍内閣では新たな成長戦略として、「日本再興戦略 改訂2014-未来への挑戦」を閣議決定し、ウイメノミクスは成長戦略の中の一つとして位置づけられている。次世代の科学者を育てる大学機関における役割は大きく、研究力増強のためには変革のスピードが必要である。このような制度化や社会背景を追い風に要望書の具現化が望まれていると感じた。

以上。